

1. 科目名（単位数）	国語（書写を含む）（幼）（2 単位）	3. 科目番号	SJMP1281
2. 授業担当教員	小本 そのみ		SJMP2381
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	国語（日本語）能力の養成・強化を主とする。発音・アクセント・方言等の日本語の特質や語法・表現技法に至るまで、日本語の基礎的知識を習得するとともに、語彙力や文章表現力の養成に努める。また幼児の発達段階を踏まえ、実際の絵本等児童文化教材の分析から、国語（日本語）の使用方法を実感的に理解する。どのような指導を行えば言語能力を向上させていくことができるのか、具体的な教材を用いることで言語能力を高める。		
8. 学習目標	1，国語科教育の歴史や意義を踏まえ、国語（日本語）能力を高める。 2，言葉の機能や教科としての国語の特質を理解し、説明できるようになる。 3，話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、指導者としてふさわしい言語能力を身につける。		
9. アサイメント （宿題）及びレポート課題	日本語や国語科教育に関する基礎的な知識と指導者としてふさわしい言語能力を身につけるための一環として、以下の課題の提出を求める。 課題1. 方言に関するレポート（第7回） 課題2. 毛筆の練習用紙（第9回） 課題3. 硬筆の練習用紙（第10回） 課題4. 語彙に関するレポート（第11回）		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】授業内でプリントを配付する。 【参考書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社、2018。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018。		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 1 国語（日本語）能力を高め、言葉の機能や教科としての国語の特質を理解したか。 2 話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、指導者としてふさわしい言語能力を身につけることができたか。 ○評定の方法 授業態度 50％ 提出物等 30％ 期末試験 20％ 上記のほか、本学の規定に定められている3／4以上の出席が単位の条件である。		
12. 受講生への メッセージ	言語は論理や思考などの知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤になるといわれています。本科目では、言葉を交わす喜びや豊かな表現などを伝えるモデルとしての役割を果たせる指導者になるために、日本語という言語、そして日本語という言語の使い手としての自分と向き合います。子供たちが言葉で気持ちを表現する楽しさ、伝え合う喜びを味わい、言語感覚を豊かにしていけるよう、自分自身の言語能力を高めるのだという自覚をもって、事前事後学習も含め、授業の言語活動に積極的に取り組んでください。本科目の言語活動が、日本語についての自分なりの考えを深め、指導者にふさわしい言語能力を身につけることにつながると考えます。 ＊座席は指定とします。		
13. オフィスアワー	授業内（初回授業）で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（シラバスの確認、授業展開の見通し）	事前学習	シラバスを読み、授業の概略を把握すること。
		事後学習	「日本語」と「国語」の違い、「共通語」と「標準語」の違いをまとめること。
第2回	国語科教育の歴史と意義について学ぶ。	事前学習	国語科でどのようなことを学習してきたか振り返ること。
		事後学習	国語科の「知識及び技能」について、各事項の項目をまとめること。
第3回	学校現場における日本語教育の現状について学ぶ。	事前学習	日本語教育と国語科教育の違いについて調べること。
		事後学習	学校現場における日本語教育についての自分の考えをまとめること。
第4回	「音声」「音韻」「音節」等、日本語の発音や音の仕組みについて学ぶ。	事前学習	単音と音素、音節とモーラ、特殊音素など重要語句の意味を調べること。
		事後学習	音声と音韻について理解したことをまとめること。
第5回	日本語のアクセントの機能、型、表記法について学ぶ。	事前学習	アクセントの滝と核について調べること。
		事後学習	日本語のアクセントの特徴をまとめること。
第6回	文字の種類や漢字に関する知識の拡充を図る。	事前学習	漢字の成り立ちについて調べること。
		事後学習	漢字の4つの造字法について、具体的な漢字を例に挙げながらまとめること。

第7回	万葉仮名、平仮名、片仮名についての知識の拡充を図る。	事前学習	平仮名の成り立ちについて調べること。
		事後学習	仮名について得た知識をまとめること。 方言に関するレポートを書くこと。*課題1
第8回	ローマ字の綴り方や現代の表記法の原則に関する基礎的理解を図る。	事前学習	ローマ字の歴史について調べること。
		事後学習	訓令式、日本式、ヘボン式の特徴についてまとめること。
第9回	「毛筆」の実技を通して毛筆で書くことの意味について考える。	事前学習	筆ペンを準備して、試し書きをすること。
		事後学習	配布された練習用紙で毛筆の練習をすること。 *課題2
第10回	「硬筆」の実技と前回授業をふまえたうえで書写教育の意義について考える。	事前学習	正しい鉛筆の持ち方を確認すること。
		事後学習	配布された練習用紙で硬筆の練習をすること。 *課題3
第11回	語彙の拡充を図るとともに、語構成や語種など語彙に関して教材の分析をする。	事前学習	日本語の語種について調べること。
		事後学習	語構成や語種などをふまえ、さらに語彙の拡充を図ること。 *課題4
第12回	学校文法を中心とした文法①「文の構造や用言」について、日本語の文法の基礎的知識を確認する。	事前学習	中学校で習った品詞について確認すること。
		事後学習	品詞の分類について確認すること。
第13回	学校文法を中心とした文法②「自立語と付属語」について、日本語の文法の基礎的知識を確認する。	事前学習	品詞の役割を確認すること。
		事後学習	自立語と付属語についてまとめること。
第14回	待遇表現、敬語表現について学ぶ	事前学習	待遇表現の分類について調べること。
		事後学習	敬語の種類をまとめること。
第15回	本科目での学びを振り返り、自分にとって日本語とはどのようなものなのか考察する。 授業評価	事前学習	前回までの授業資料に目を通し、学びを振り返ること。
		事後学習	日本語という言葉と向き合ったことによる自分の変化について考え、まとめること。
期末試験			